

公 民

『公共，倫理』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度（第5回）共通テストが実施された。なお，評価に当たっては，報告書（本試験）21 ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」第1問と同じ。

第2問 『地理総合／歴史総合／公共』の「公共」第4問と同じ。

第3問 幸福について（源流思想・西洋近現代思想）

生徒間の会話を基本設定とし，原典などの諸資料を用いながら，幸福について多面的・多角的に考察させる大問である。日常生活の中の場面をもとに，人生における幸福の在り方やその実現について，様々な先哲の思想と関連付けて考察させている。一貫したテーマを設定しつつ，源流思想と西洋近現代思想を横断してバランス良く出題されており，『公共，倫理』の問題として適切である。まとまった文章量の資料を読ませ，言葉（概念）に込められた意味を緻密に考察させていく出題が複数見られ，先哲の思索と向き合い対話する学びについて示唆を与える大問であった。

問1 幸福の実現に関する古代ギリシア思想についての設問。懐疑派について本文では扱っていない教科書もあることから，受験者の学習の程度によって差が出る問題になったと思われる。消去法で解こうとする場合，思想家がある言葉を言ったかどうかの正誤判定が難しい。

問2 宗教における戒律や宗教的实践についての設問。扱う知識のほとんどは基本事項だが，ハラルについては直接取り上げていない教科書が多く，判断に迷った受験生がいたと思われる。

問3 原典資料をもとに，律法と信仰に関するルターの思想を読み解く設問。先哲が言葉（概念）にどのような含意をもたせ，思想の中でどのように位置付けているか，原典の文章を緻密に理解する必要がある。「倫理」ならではの資料読解の在り方を示唆する良問である。

問4 人間や社会の在り方に関する中国思想についての設問。扱う思想家は多いが，選択肢中の表現は教科書で学ぶ基本理解に沿っている。このような基礎の定着度を問う問題は今後も程良く出題してほしい。

問5 原典資料をもとに，道徳と幸福に関するカントの思想を読み解く設問。適切な用語を選択するには，カントが道徳をどのように捉えているかという基本理解を踏まえる必要がある。基礎的な学習内容を資料の文脈に位置付けることで本質的な理解を問う良問である。

問6 理想的な社会を考えた人物やその思想についての設問。多くの人名と語句を示し，それらを用いて正文を作らせるという，新しい形式であった。人物に関する知識の部分では教科書での扱いが少ない事項もあるが，判別のまぎらわしさが生じにくい形式であったことから，標準的な難易度となった。

問7 原典資料をもとに，自己の幸福と他人との関係に関するスピノザの思想を読み解く設問。資料文が長く，用いられる表現や論じられる内容もわかりやすくはない。さらに，スピノザの思想自体

が独自のものであることから、高度な読解力を要する難易度の高い問題になった。

問8 現代の人間の生き方や在り方について論じた哲学者についての設問。学習が手薄になりがちな現代の哲学者を多く取り上げており、新科目らしさが感じられる。多くの要素を含むやや長い選択肢の文章で、それぞれの思想内容の総体的な理解度が問われた。

問9 大問全体の会話文を踏まえ、先哲の思想に関する知識と関連させる設問。生徒が幸福に関する学習と考察をまとめる場面を模した形式であった。サルトルの用語は大問全体の流れから見るとやや唐突だが、知識事項はいずれも基本的である。

第4問 日本で尊ばれてきた心情について（日本思想）

清き明き心など、古代以来、日本で尊ばれてきた心情に関して、生徒同士が対話し、倫理の授業で配布された資料などから思索を深め、レポートにまとめる場面設定の大問である。倫理の教科書で学習する思想や人物について、幅広い知識や思想内容の理解を問う、オーソドックスな内容である。資料問題は平易であったが、全体的には教科書で学んだ日常の学習の成果を適切に測ることができる設問であった。文章量は適切で、出題範囲も古代から近現代までバランスが取れていた。

問1 清き明き心や襖・裱いに関する記述として適当でないものを選ぶ設問である。②は正誤判断しづらいが、全体的には平易である。

問2 望ましい心の在り方を考察した江戸時代の人物の思想に関する知識の正確な理解を問う、平易な設問である。

問3 資料の空欄に入る人名と記述の組合せを選ぶ設問である。平時の武士道徳である山鹿素行の士道に対する山本常朝の批判や、吉田松陰の一君万民論が近代の国民道徳の先駆であった点を理解できているかが問われた。知識とともに思考力を問う資料問題であることが望ましい。

問4 鎌倉新仏教で実践を説く仏教者が著した資料を読み、その人物の教えを選ぶ良問である。道元の修証一等に関する資料から、身心脱落を説明した②を選ばせるというように、用語の意味をきちんと理解していることが問われた。

問5 生徒のレポートから、二人の人物に当てはまる記述の組合せを選ぶ設問である。島崎藤村は文学史的な知識が問われたが、「想世界」が北村透谷の語であることがわかれば正文を選べる。公共でも扱われる和辻哲郎については、社会と個人の相互否定により間柄的存在が成立することへの深い理解が必要とされた。

第5問 情報技術と人間の関わり（心理学、現代の諸課題）

生徒同士が情報技術と人間の関わりについて話し合う場面から始まり、人間とAIの知能の違いや、人間とAIとの共生の在り方について、その可能性や問題点を考える構成となっている。その過程で、情報技術と倫理に関する問いや、発達心理学に関する問いを入れ、情報技術と人間の関わり方について、多面的、多角的に考えさせる大問となっている。

問1 遺伝情報を用いた医療技術に関する用語について、正確に理解していれば解答できる。ただし、ラーメイド医療については知らないから選ばないという受験者もいたと思われる。

問2 情報社会や地球環境問題に関する基本的な理解があれば解答できる。

問3・問4 問3は、認知の発達を調べる実験から、人間とAIの知能の違いは、自分の視点を離れて抽象的、客観的に思考できるかどうかにあるとする会話文の趣旨が読み取れば解答できる。問4は、問3を踏まえた上で、人間の発達に関する基本的な理解を問うている。問3と問4を組み合わせることで、知識だけでなく、理解力や思考力も試す良問となっている。

問5 人間とAIの共生の在り方について、それぞれの立場を選択させた上で、その立場への懸念や反論を考えさせており、現代的なテーマに関する知識の活用力や思考力を問う良問である。

第6問 異文化理解と共生（現代の思想）

大学生が異文化理解について話し合う場面設定の中で、異なる立場の意見を考察していく大問である。基礎的な知識の理解だけでなく、論理的思考力を測る設問も多くあり、受験者の能力を総合的に測ることができた。しかし、論理的思考力のみで正答を判断できる設問については、教科書で学んだ知識や倫理的な見方・考え方を組み合わせた設問となることが望ましい。全体として標準的な難易度の設問で構成されていた。

問1 レヴィ＝ストロースの文化相対主義の理解について問う平易な設問である。基本的な知識の確認の設問になっているため、文化相対主義について当てはまる事例を判断させる等の知識の活用を測る設問であることが望ましい。また、選択肢の文章の構成が正答を導くヒントになってしまいう可能性があることについても配慮されたい。

問2 サンドルの思想の理解についての設問である。選択肢前半部分については会話文から判断することができるが、「負荷なき自己」、「位置（状況）づけられた自己」の用語については記載がない教科書もあるため、判断に迷った受験者がいたと推測される。後半部分については、個人の自由よりも共同体において共有される「共通善」が優先されることを理解していれば解答できる。やや難易度の高い設問であった。

問3 大学生の会話文中の非論理的な発言を選択する読解力、論理的思考力を図る設問である。平易な難易度であり、落ち着いて読解することができれば正答することができる。会話文全体を読み込む必要があるため、正答を導く過程に時間がかかる。会話文から引用し、具体例を提示したものを判断させるという出題形式も考えられる。

問4 二つの資料に対しての反論の組合わせを判断する設問である。一方的な立場の意見だけでなく、それぞれの立場がもたらす問題点についても考察を深めさせている。

問5 会話文の空所に入る文を論理的に考え判断する設問である。落ち着いて判断をすることができれば難しくない。

3 分量・程度

試験問題の分量は、大問6、総設問数33の構成である。試験全体の分量や文字数については、「公共」と「倫理」それぞれの問題作成方針を考慮すると適切なものであったと考える。

「公共」の問題については、基礎的・基本的知識を問う問題から、思考力・判断力・表現力等を問う問題まで幅広く出題された。昨年度までの『旧現代社会』の問題に比べて、一問当たりに提示される資料や会話文などの量は減っており、すっきりした印象を受ける。本試験と比較しても、大問ごとの難易度と分量に差は感じられなかった。

「倫理」の問題については、試験全体を通して幅広い分野が出題内容として取り上げられており、難易度については標準的である。資料問題が11問あり、豊富にあった反面受験者が読み込む文章量が多くなった。基礎的な知識の確認だけでなく、各大問及び各設問で資料を読解・活用する設問が見られ、受験者の能力を総合的に測ることができた。しかし、教科書等で頻出度の低い用語等についての出題では資料や会話文を組み合わせ考察させることで解答することができるよう配慮されたい。

4 表現・形式

各設問の文章表現・用語の扱いは適切であった。多くの大問・小問が会話文をベースにしており、日常生活の中で問いが生じる場面や探究的な学習の場面を描いている。授業の中だけにとどまらない社会参加を模した設定が度々用いられ、新科目における学習の姿勢に関して示唆的である。資料や図表の扱いは適切であった。会話文と資料を組み合わせ、やや複雑な手順で取り組む必要のある小問について、指示表現は明解であったが、見開きにおさめるなどレイアウト上の配慮があるとよい。受験者が任意に選

んだ選択肢それぞれに対応する複数の正解がある小問は、多面的・多角的な考察を促す出題として評価できる。

5 ま と め（総括的な評価）

「公共」は人権保障に関する思想や私的自治，社会保障などについて，功利主義や青年期などを関連させながら，考察させたり，探究させたりする構成となっている。

「倫理」は幸福や道徳，自己の心や他者との関係の在り方，情報技術との関わり方，文化の尊重や相互理解の在り方等，人間としての在り方生き方に関連する諸課題について，伝統的な考えや先哲の思想も踏まえながら，多面的・多角的に探究する構成となっていた。基本的知識を問う際も，深い理解に達しているかを試せるように，出題形式や選択肢の文章が工夫され，資料問題においても，知識の活用力や論理的思考力を問う良問が複数見られた。

ただし，全体の分量が多くなっているので，思考する時間を十分に与える配慮が求められる。資料も豊富に用意されていたが，知識や読解力のみで解答できるものもあったので，理解の深さや論理的思考力を適切に測れるもののみに精選されればなお良かった。

全体としては適切な難易度であり，現代的な課題について，公共的な空間を生きる私たちが，倫理的な観点から多面的・多角的に探究する新科目『公共，倫理』の特徴を生かした作問であったと言える。